

テーマ：景気動向指数（2017年2月）

発表日：2017年4月7日（金）

～景気は回復基調持続～

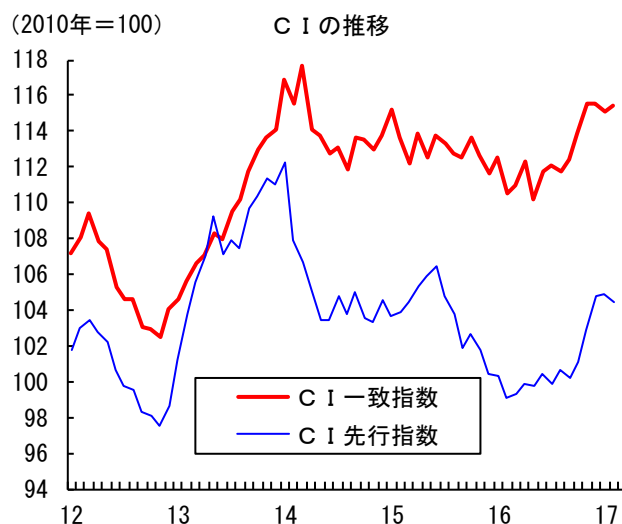
第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
TEL:03-5221-4528

## ○C I一致指数は小幅改善。基調判断は「改善」維持

内閣府から公表された2017年2月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+0.4ポイントとなった。1月は前月差▲0.4ポイントと5ヶ月ぶりに低下していたが、これは中華圏の春節のタイミングのズレによる輸出・生産下押しの影響が大きかった。2月は春節が逆に生産押し上げに働いたことで、C I一致指数も上昇に転じた形だ。均してみれば、C I一致指数は上昇傾向にあると評価してよい。なお、2月の内訳では、小売業販売額や有効求人倍率などがマイナス寄与となる一方、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数などの生産関連系列の押し上げが目立ち、全体ではプラスになっている。

また、2月のC I先行指数は前月差▲0.5ポイントとなった。5ヶ月ぶりの低下ではあるが、これまでの上昇分が大きかっただけに、さして問題はないだろう。先行C Iは16年2月を底として持ち直し傾向にあり、特に昨年11月以降は改善ペースが加速していると評価できる。なお、2月の内訳では、最終需要財在庫率指数がプラス寄与の一方、新設住宅着工床面積や消費者態度指数などの押し下げが大きかった。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、5ヶ月連続で「改善」となった。「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」であり、景気が回復基調にあることがC I一致指数からも確認されている。先行きについても、内外ともに製造業部門での回復が顕著なことや、経済対策効果の顕在化が期待されることもあり、景気は好調に推移する可能性が高い。基調判断も「改善」が続きそうだ。



(出所)内閣府「景気動向指数」